

新宮山彦ぐるーぷ第2082回

般若岳・地藏岳に靡看板を設置

(正法寺谷林道から乾光門へ登る)

◇実施日：2020年5月24日(日) 小雨

◇参加者：沖崎吉信、濱野兼吉、中前偉、山川治雄、岩本信行、  
梶野照雄、村吉光夫

7名

靡看板の設置を本格化した。今年に入り8カ所に立てたが、やはり近くから立てることになり、だんだんと遠いところが残ってくる。そうになると、近道はないか？ショートカットできないかと考えてしまふ。4月18日に持経宿から前鬼までの巡視の際、涅槃岳、乾光門と二つ石の3本を立てたが、その中間の般若岳、地藏岳(子守岳)、奥守岳、蘇莫岳の4ヶ所が宿題になっていた。村吉さんは、新型コロナウイルスの影響で仕事が自宅待機となり、この日も持経宿に入宿されている。5月だけでも3回(8泊)の入宿だ。13日には、前鬼から太古の辻に登り「奥駈葉衣会」の看板を新設、翌日14日に持経宿から天狗の稽古場の看板取替に向かい、帰路地藏岳から林道へ直接下り、1時間40分で林道、その後林道を8km歩いて、午後7時頃に持経宿にたどり着いたとのこと。この日も2日前から入宿されていて、同行することとなる。

事前にこの区間の残り4ヶ所の設置は正法寺谷からピストンす

ることを決め、5月2日に林道の下見も済ませた。朝8時にスポーツ公園に集合し、沖崎、山川、梶野の3台で持経宿へ。持経宿の手前で梶野車が徐々にパンクする。



持経宿に到着



正法寺谷第一堰堤で



植林を登りだす



1138mの広場



奥駈道に合流



シロヤシオ花の絨毯

持経宿で村吉さんも同乗、沖崎、山川車の2台で出発、大半の皆さんは水場から奥の林道は初めてとのこと。30分程で着くかと思っていたが、落石や倒木の処理に時間が掛かり一時間ほどを要した。正法寺谷手前の堰堤に到着、これより先は林道の崩落があつて侵入できない。取り付き直近まで車が入れたことはラッキーだった。

杭を沖崎と中前、標板を濱野、岩本が担ぎ準備完了。第1堰堤(手前)と第2堰堤(奥側)の間から登ることになるが、梶野、濱野、岩本の3名が手前の杉林から、沖崎、中前、山川、村吉の4名が第2堰堤脇から、と二組に分かれて登り始めた。

この日の予報は晴であつたが、霧雨でガスがかかり、晴れていれば見えるはずの奥駈道尾根も全く見通せない。時折雨が強くなることもあり、気温も低く一日中同じ気象状況だった。



滝川辻を通過

般若岳に到着

摩看板の設置

最初の尾根に取り付くまでは急登で、足場が滑るところもあつたが、それも10分ほど、尾根上はなだらかで障害物は殆ど無く、道

があつたようにさえ思えた。30分程で平坦なピークに到着。目標にしていた125000地形図の1138mであることをGPS3台で確認、事前に想定したルート通りに登ることが判った。この先は等高線の間隔も広く、30分程度で奥駈道に合流するのとこどで少し休憩する。この1138m地点は平坦な広場になっており、古いドラム缶が放置されている。植林の際の作業基地になっていたようだ。



地蔵岳南に標識

地蔵岳(子守岳)に摩看板

本日の参加者

休憩の後、奥駈道を目指して登り始める。地形図の情報通り登りは緩やかで、尾根幅も広く歩きやすい。先行の山川さんは枝打ち鎌で支障木を整理しながら進む。一時間少々で奥駈道に合流、乾光門の50mほど涅槃岳寄りだった。目印に白いテープを巻き、しばらく休憩する。再び歩き出して滝川辻を目指す。奥駈道にはガスがかかり、シロヤシオの落ちた花が絨毯のように敷き詰められて、植林ではない自然林の風景が素晴らしい。この辺りを歩くのは久しぶりだ。

30分で滝川辻に着く。ここまでは登りが続き、岩横の少々ヤバい所も通過したが、以前の記憶がまったくない。次は般若岳だ。10分ほど進むと岩峰が現れる。左側を捲いて前に出たら般若岳の下だ。この岩峰が般若岳だった。

靡看板は山頂ではなく奥駈道沿いに立てた。山頂へは2分程で到着する。山頂にも数枚の碑伝が置かれていた。

時間は12時を過ぎていたので、ここで昼食とした。

12時30分、地藏岳（子守岳）に向けて出発する。地藏岳の南、1328mへ登りだす所で道が二つに分かれている。直進はいかにもそれらしいはつきりとした踏み跡があるが、奥駈道は右側の岩の間を登っていく。ここで間違え順峰者が多いことに納得する。

4月の前鬼までの巡視の際、ここに標識を立て忘れたこと気にかけていた梶野君が標識を持参してきて設置し、直進路には倒木を積み上げて間違えて侵入しないように対策を施した。



天狗の稽古場



奥駈道から林道へ



林道に降り立つ

午後1時、やっと地藏岳（子守岳）に着いた。村吉、濱野の両名は天狗の稽古場まで看板の修正作業のため足を延ばす。残りの5名で靡看板の設置を行う。その間も小雨が降って、作業終了後、2名の帰りを待つ間に少し体が冷えた。

15分程で2名が戻り集合写真を撮って帰路につく。約1時間で乾光門、それから40分で林道の車まで戻った。皆さんお疲れ様でした。



倒木の根を削る



持経宿に帰着



水場のホースに金具取付

持経宿水場から奥の林道は距離が長いし荒れた部分も多い。単独で乗り入れることは避けたい。

林道から奥駈道に登るには今回のルートが最良と考えられる。GPSのデータでは登りの距離が1,100m、標高差が約180m下りの最短ルートは900mだった。地藏岳付近から下ると、かなりの高度差があり、斜度もきつくなるので時間がかかる。

持経宿く太古の辻間では、あと2ヶ所、奥守岳と蘇莫岳が残って

いる。前鬼から近いが、今回のルートが楽か、判断に迷うところだ。

靡看板、第4靡吹越山から第40靡积迦ヶ岳まで37ヶ所を設置予定で、今回の2ヶ所を含めて18ヶ所に設置を終えた。約半分だ。引き続き以後の19本の設置にご協力をお願いします。

(記：沖崎 写真：梶野)

### 行動タイム

08：03スポーツ公園08：55持経宿09：03→09：56正法寺谷堰堤10：00→10：34P1138→11：06奥駈道→11：12乾光門11：37滝川辻→12：02般若岳12：30→13：06地藏岳13：35→14：54奥駈道分岐→15：14正法寺谷堰堤→16：10持経宿

